

2024 年度『言語社会』執筆要領

以下の要領で 2024 年度『言語社会』第 19 号への自由投稿原稿を募集します。

執筆を希望される方は、執筆申込書のエクセルファイルを gensha.kiyo2024@gmail.com 宛に 2024 年 4 月 25 日（木）～5 月 10 日（金）の期間中にお送りください。締切厳守です。また在籍生、修了者、退学者は各自の指導教員に、指導教員が退職している場合、それに代わる教員に投稿の許可をメールで得てください。上記の期間中、指導教員等より編集委員会に宛てて、許可のメールが転送された方にのみ投稿を許可します。

1 執筆資格

申し込みの時点で本研究科教員、もしくは言語社会研究科の在籍生、修了者、退学者であること。ただし、共同執筆論文については、本研究科教員が主筆者であれば共同執筆者に制限はありません。

2 査読

研究科の在籍生、修了者、退学者の投稿については、査読を経た上で掲載の可否を決定します。査読の審査方法に関しては、執筆要領補遺を確認してください。

3 原稿の提出期限

原稿提出の締切は、在籍生、修了者、退学者は 2024 年 6 月 21 日（金）午後 3 時、教員は 2024 年 9 月 27 日（金）です。また、投稿チェックシートをあわせて提出してください。2025 年 3 月の刊行を予定しています。いずれも締切厳守です。

4 提出原稿について

- (1) 原稿は「完全原稿」のワードファイルで gensha.kiyo2024@gmail.com 宛に添付ファイルで送付してください。提出に際しては、ファイルのタブにある「情報」⇒「問題のチェック」⇒「ドキュメント検査」の機能等を使って、ドキュメントの個人情報をご削除してください。対応できなかった場合、投稿時に連絡してください。
- (2) 原稿のカテゴリー・文字数制限は次のとおりです。研究ノート（日本語 12,000 字、英語の場合は 3,700 ワード）、論説（日本語 16,000 字、英語の場合は 5,000 ワード）、資料（日本語 20,000 字）、翻訳（日本語 20,000 字）。文字数上限は厳守です。（これらのカテゴリー・文字数制限を逸脱するもの、日本語・英語以外の言語の場合については、申し込みの際に理由を記載して編集委員にご相談ください。）
- (3) 上記の文字数制限は、註・文献表・図版等を含むものであることに留意した上で、本文・註・文献表・図版等を合わせた最終的な文字数を同じく投稿別紙に記入してください。なお図版の実際の大きさはさまざまですが 1 枚 250 字で計算してください。
- (4) 日本語以外の言語による執筆、および本文中に日本語または英語以外の言語による引用がある場合、あるいは数式・図表・図版など特殊な組み版を必要とするものをふくむ場合につ

いては、同じく投稿別紙に記入し、さらに特殊なケースについては「特記事項」欄に記載してください。

(5) 註は、文末にまとめて入れてください。ただし、電子データの提出に際して、註やキャプションは同一ファイルで問題ありませんが、図版を Word ファイルに貼り込んだまま提出すると画像が劣化する場合がありますので、図版は元のデータを別ファイルとして提出してください（執筆要領補遺参照）。

(6) 組版は、日本語原稿は原則として縦書きとしますが、特に横組みを希望される場合は同じく投稿別紙にご記入ください（本文中に算用数字による数値データを多用する場合は横組みをお勧めします）。文字ポイントは 10.5、用紙サイズ A4 のページ設定は、縦書きで全角 38 字×35 行程度、横書きで全角 38 字×35 行程度に設定してください。なお、原稿用紙の設定にはしないでください。

文献データの記載書式については、種々の論文誌等をよく参照し、なるべく指導教員の指導を仰いだ上で、論文内で統一を図ってください。

5 校正

著者校正は原則 1 回のみです（編集委員会が執筆者に 2 回目をお願いすることもあります）。なお、校正はもっぱら組版調整および表記統一のために行うものです。内容面での変更や修正、またページ数・行数あるいは全体の構成に影響を与えるような大きな修正はできません。

6 その他

(1) 著作権のある図表、図版などの使用やテキストの翻訳に際しては、掲載決定時までに必要な著作権処理を執筆者の責任で行ってください。

(2) 本誌に掲載された論文等は、一橋大学機関リポジトリで公開されます。あらかじめご了承ください。なお、リポジトリの公開時に図版を網掛けにする処理は可能です。希望する場合、投稿時にご相談ください。

(3) 原稿提出のさいは連絡先などの諸事項を記入した投稿別紙、投稿チェックシートを添付で提出してください。海外渡航等でしばらく連絡がとりにくくなる可能性がある場合は、その旨も記してください。また、原稿掲載が決定した場合は、12 月に校正をお願いする予定です。スケジュール確定次第なるべく早期に連絡を行いますが、その旨ご了解ください。

編集委員 小泉順也 小関武史 中山徹 (50 音順)